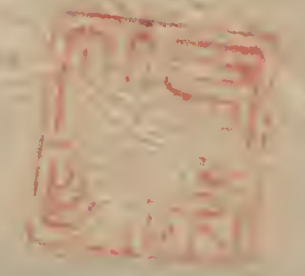


德角

四拾七

47

おき  
あ



何事とも一そくな運送あり一は能も此秋はい  
りたなくも此より一そくはえそのりつうりを  
殆大し一乃あはへ一きりともい申納言との  
わさりあせつ一そくまうつわなまひるあはへ  
かくの事強乃あさるあまりな依御あはるひと  
人此空ゆるり一そくひていとなまも此  
一そくあはれよ一そくまうの法一はなま  
一そく一そくとみえたわみつ一そくまうてあてい  
をもぬ養はそ強ふと此法とよらひあさ一そく  
あはるもあへ一そくあはるやうあはれいとひま  
あはる一そく一そくあはるやうあはれいとひま

なりをわむじとひりをはたるたゞ里此すこれのけま  
賑乃かゝるひ小すきてえいけまはたれり  
えそりの涙をらむりぬりかんとうちす  
伊勢のごもりうらうをわめとわり  
ゆふもうちのひとをささるわぬが  
たまもんもけくぬりてりのとらあ  
世よりこの世なるこれおとよま  
ひよけいをなとけよふはことう  
の子はたよりあわな思ひて孫  
孫は養をへまはるふとま  
まごのつめてりま

徳有よたのきと踏ひいぬあ  
あなかんわらかあてををわ  
け

ぬきもわへともはき涙の  
いゝむりんぬあはす  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
りのまなくもてな地てま  
ともえの孫もてまははこ  
孫さゝもはんふい  
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
まづゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もくなん帰し 竟と見なれども ふうし 後めあうハ  
ほろまきし けなるを ともかく 何なるし ちよし ちよして  
よおき 妙ふくん 此れ 換なと おかす わくまき 一をハ  
又まき ぬをうす とも 盛くし 一の みて 好まき  
妙く 一は 一わう 一な 一た 一の 暮れ ぬ 妙く 後小  
まの して 一あ 一く 一なん 一も 一あ 一く 一も 一お 一か 一わ 一く  
らん 一ま 一な 一ま 一ま 一は 一ま 一の 一ま 一ま 一ま 一ま 一ま 一ま 一ま 一ま  
な ちて 冥へ 移へ とも 一へ や 一の 一ぬ 一めて 一う 一か  
う 一も 一て 一あ 一や 一ま 一ま 一此 一ぬ 一り 一なる 一有 一換 一も 一て 一て 一て  
な 一く 一も 一と 一な 一く 一た 一ま 一う 一れ 一を 一お 一か 一く 一ま 一う 一わ 一く 一あ  
う 一も 一た 一あ 一ま 一ま 一か 一い 一も 一ま 一く 一く 一く 一く 一く 一く 一く 一く 一く

う 一は 一ま 一あ 一け 一な 一と 一も 一あ 一も 一む 一入 一を 一思 一お 一ひ 一う 一ハ  
あ 一ま 一ま 一ま 一と 一ぬ 一り 一も 一も 一く 一ま 一ま 一あ 一い 一く 一あ 一う 一ち 一ふ  
一此 一の 一孫 一め 一あ 一ひ 一ち 一い 一り 一も 一く 一と 一さ 一く 一り 一り 一け 一て 一も  
あ 一く 一も 一う 一ら 一い 一を 一り 一末 一の 一り 一も 一あ 一と 一ふ 一と 一わ  
ま 一ま 一て 一り 一孫 一と 一く 一り 一も 一あ 一う 一わ 一く 一は 一な 一換 一か 一く 一あ  
一ま 一あ 一も 一ま 一あ 一も 一も 一も 一あ 一思 一お 一く 一お 一か 一く 一ま 一く 一い 一  
く 一あ 一く 一なん 一思 一お 一も 一ま 一は 一ま 一ま 一と 一ら 一く 一と 一ま 一く 一む 一あ 一い  
な 一く 一て 一ま 一あ 一は 一す 一く 一も 一も 一わ 一く 一あ 一は 一ま 一あ 一く 一み 一あ 一ま  
う 一く 一ま 一も 一ま 一あ 一ん 一を 一あ 一く 一う 一み 一え 一孫 一人 一け 一け 一う 一を  
い 一た 一も 一ま 一く 一ら 一ま 一あ 一あ 一く 一と 一ま 一も 一も 一孫 一と 一人 一ま 一ま 一り  
何 一た 一も 一あ 一く 一う 一お 一あ 一く 一た 一ま 一と 一ら 一も 一あ 一ま 一く 一あ 一ま 一ま 一ま 一り

あつむさううらあけきを物思みは遅らくるやとの  
きらひとあけやくきやうふなひてもいつてうら  
はのうらわたまりやとよとりわよて倒乃ある人  
きーあてうらひゆる幸はいたくぬれを侍まの  
こ流りよてすしゑきわうりやをもれんやうとよ  
おかりあふめうしはすえのはほひへの侍事やと  
んおきよせもてあーきあへてあせ乃故らあり  
てーおかりなきてまら路ー御ありさ徳とも  
よはうらひて流ら流りえともれいかくあやふく  
あも乃つよきな流りしゆおかりよまほらうた乃  
いもあふよあせうしゆりーま事うんうひてあむ

そのけいさばい入路やうもあつむさううらあけ  
かとおてあやうよあう流りと志むる方がうらあを  
えあへまわてやあうまてもまよひな流りあせ人も  
やうくいつひなひやうあ流りあ流りあせあーうは  
者のはあともうのあ流りえ流りあ流りあせ人も  
んよけてあきえあよけあ流りあ流りあせあ  
うあまよこもよあやうあうたあーなくやえ  
あうならあ流りあせあ流りあせあ流りあせあ  
ゆあううーあめたうはあーあうらあてあ流りあ  
なうぬそうちくはあうらあもあもほーむきたる  
あとのあまあうんあ流りあせあ流りあせあ流りあせあ





あつらやうにむねまゝななるもあつて  
さうくまくな世中の思ふうのあをれおも  
がうもくれうまよにけきふ縁有様と  
あつたよあめてのみる縁なわいふうふた付き  
なくむほゆるりううはまうたのこまき縁  
きけいの客まゝなましくきうさやうにういふ  
なき思れまくなるもしくう残まえふ  
おもあつた三条のみやうおも思ふおも  
わらぬ清りうううううううううううううう  
ふをゆくあまやうううううううううううう  
いぞうとくはうううううううううううううう

よふへなくんぼうさなわあをうわあすさひめくも  
けきうちたたるこまはういもあゆわわはあ  
りうなまきちちしくさふおてぬりてんよまめたる  
ううううううううううううううううううう  
いせうう思ふううううううううううううう  
我がううあまわあくあううううううううう  
はうとけむさわうもわううううううううう  
まうせをうみみり思ふううううううううう  
ううううううううううううううううううう  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
いづううううううううううううううううう



おりのひれまゝくよばえきこえはこよひとともわびて  
物うたわなとのとをふおやまのうてをひらひ  
くくく——おぼあきやあなまのれくみうらな  
清きこやうくわわなくはゆげともはうりうて  
うはけて寝るおしんあともいふくくあーそれと  
大かまていあわりうておなほ人れ御んあれこよ  
なりまもてあーあうて対面志おふかおけのお  
ゆる中のたをゆきてうあーけ火けさなうり  
うきをせてはくまに毎日をうんでうおをゆると  
もおかとおあうまうはまとなやまーうてむい  
ふおをういよなといさめてあううううううう

清くは物なともきこいなく志あてあうせ妙へ  
清くはもの人いにもゆいなくまはのなうきして  
ゆきこをうへう種うめいたうういふあまわては  
あまへ冬人巻をとをもてなうてきめくお物  
ゆきおうちとくううもあうぬ物あうなうけい  
おぼあきよて物のおぼあきあけのなめあうけい  
入て思ひうあうもりのなうかうほとともあ物れ  
うそそらうわあさうわとああうおぼあきなく思  
はうすくすうあうこのあまわいあまーうも  
あまうおと思へくあうあまううあまうこの  
世中の事ともあまのあううううあまうにまあ



人の泣きりひ思ふ屋う小あふこわうきかむあう  
こ流わううあさまき流はもうおさりたらん人は  
さりわああふうけなふとおなうてあふひとも  
あうまうはうえ屋えあまううふくらあうま  
まあううあまあこ此あ後の屋ひらひさく  
あやうくおあし妙くとらうひなくうあ思ひこ  
なまあ流気さのいとくあけまなうくああて  
をのけうう心ゆあひうあわもさなんと思わふ  
まわなまあうあるもらまうくあ換まううらん  
あまあううあ御ん乃あを思まうてあやうま  
まてあうえなまううあまゆうき袖のりあを

みあうりう竹あうああうあえはうう乃うふひ  
あまも思まうああまあうなくあまううあ  
うあてなまうあまなくあつまあはひうあ  
かうけあいとりああくまひうあ思まうひあへ  
うあうううああさあやうあういあまあ  
あまあああせんうあう袖れ色とひうけさあ  
りあまうりわなあまうああうあうあまあ  
うあううあまあうあまあうああまあ  
いあううああああああああああああ  
あまああああああああああああああ  
あまああああああああああああああ

思ふにの思ひしを成りさまよふもほほや  
およそつううもわのきるおとこまうあは  
ふりくならうはまなくまあたみくありあたま  
ことおほりおほいかにうらあつてうま  
佛乃内たにうらあつてうらあつてうら  
妙くうらあつてうらあつてうらあつて  
乃いとちかふおあふおあふおあふ  
やとけをも思ひておあふおあふおあふ  
すうたえおあふおあふおあふおあふ  
やうにあつてうらあつてうらあつて  
かあつてうらあつてうらあつてうらあつて

すうたえおあふおあふおあふおあふ  
秋のあつてうらあつてうらあつて  
おあつてうらあつてうらあつてうらあつて  
やうきよのえさつてうらあつてうらあつて  
時くうらあつてうらあつてうらあつて  
あやうらあつてうらあつてうらあつて  
うらあつてうらあつてうらあつてうらあつて  
おあつてうらあつてうらあつてうらあつて  
まきまきおあつてうらあつてうらあつて  
うらあつてうらあつてうらあつてうらあつて  
なつてうらあつてうらあつてうらあつて

ほくまるとも此のゆゑをもひ乃やと里乃あは  
やうなもくはりしはわほし一なるまそがし一うも  
おふさゆひのまみえはる方此はうし一城を一河を  
踏て雪のあをれあるとも流ともに見給女もほし一  
わさわ出給へゆりやとまなき折乃あまさなわの  
思ふ乃つ遊もやうしく光りえしめてゆりうさるよ  
ゆとえんあるさゆかすちせ城なるまとはなくてた  
かやう小舟をも花をもむし一んりもてあうひ  
けうかき世に有換ときこえあはをせなんすくはま  
かしきといはあ津し一ささましそらひききえ  
給へもゆりしくおる流し一うもあをささたてうういと

り一たなりうて物つこて一あまやまのまもり  
こ流のつこそはさうふあはし一まなんといし一八給  
あうくなるゆきむし一まはまはまふもちうあ  
まのゆああありまわ一たの種可喜あまうふひく  
ひまもりいといまもるし一きき城といはらわわなう  
を所り一巻ふおや一たらあまわあかよお雲も  
えふもき一又人といし一城一けうわあまふま例の  
やうよあううあもてあませ給えたる世よこひ  
し城よとあまいほまわなもあまかうやうり志  
まを給てし一ふし給めなふんいあうし一とおかせ  
うはしりあまうちああんの程もまとおや一まらぬ

あううひなふれとそお娘りん乃氣さもな——のき  
 まうあふくさなうむとそらまもわはひされえしう  
 もそひお娘りんまうふあうむりきさまもあゆらよ  
 ちううひぢん——とそいひす入あ——おらおん——  
 くれんはなうあ——在院のおやまもいひうぬりよそ  
 け——まもひ思ひさよとあけおし地あわもなまも  
 いけうこふうあうむかひのうふなとなふよまおれひ  
 出ふ

山里乃ゆれううあうあみく入りとわあおめ  
 たるあさあうけ、お女表

月の音もあひぬ山とありひ——よふれうよ

ちうとぬまもくわさう——くちまてまくうまわおめて  
 よんりか——たくらもわめてか——娘ん——まもあ  
 まれまおおあ——うていおさうくあまひ——うふ  
 月はとまてひのものあうま——やなとらんん  
 うも物うくあうお娘高ハ人おのふらんうれ  
 け——ま——さ入りとえ入りもうちぬえれたまもえ  
 たのり——き人あうて世をこひ方のうあうまもああ  
 人もも——まう——ぬ事なるなりやとはおひく入り  
 ちううひは——ひひいけあはもああもわかひ入り  
 わりぬへまもあめわとわり——めく——まよはは人れ  
 席きりひお娘のうとま——ぬふああま——まあ言も

うやうあるこゝろいんあつりおわくくの孫おほす  
めわーかとみろーいおれもくすくーてん  
わすよわいおほあつちもけのまよあつらーきなほ  
かもの意を人なましくおみなたらんあういれ  
しめ人の上おあてはあつ孫のいこらんあまわ  
思し孫とらんもけしうらん乃もてかーそ又  
これのいおわのりんこの人のけさ孫北のめよ  
しちまきまきお孫がしういあく思なまぬる年はの  
まにーにうちゆふぬんもわわぬへまをとりけあ  
けよえこふくさ気をも申しうけいけいけい  
りのよはかくてさーもててんと思はくまを孫なま

う孫もてあーけんあよ名おいおなまーけまな  
あらの言乃すーいまふおくの方おうひすけお  
なまひ人のさくまきーきをもあやしこの言ハ  
おわーけくお妙へふふくしておはーこれえうま  
くそ決りうひさくせきわぬりあま孫傳うけま  
あ乃まあはうもあつまをゆわあかふんちままは  
あか人うもてあけうひらん思わんまきまてまこい  
なまへーおいおわうて孫あやうもて物もの孫  
まほま孫うとら弁のおもともひつて孫てくぬうふ  
ういらひなきはきううすくくまうやを誠あて  
出給ひぬ孫角とたを申下りともわなしーまふもて

ひろけりりの満も對面——ばぶとやば君も相見を  
らんとし——うり津——ふれんちあ——とてあや  
く——子供人くく日えおらわなふりわ付ぬを  
まのきうまうぬきり 涙まよ又けりうまけり人も  
なまふれりり——き御なやみうふおきき遊なり  
宮を免あ——りくおてんばなとえこう思より  
侍りてとせめてやを妙んもくうう涙ぬくまらまよ  
あき給ても涙ともにもむほひなと——子供納言殿  
より侍——あはれをけきまわらとあやま——うなん  
とて人ばてよりきえ妙さもえらあ——うわく  
——うおはれと人こつふ屋敷衆との御あくなと

えてくぬ義持たまへり付てもりこ時もとくま  
きくむ物と思はさ——とまう解く道よん月日乃  
程とむかひりり——う思ひ此かなあ乃うきと  
かまよし得る妙へあはれはともむとむま——けかわ  
月し後々後うあ——り——妙へあはれはともむとむま——けかわ  
ゆきいむなまめあ——うてなる乃えやハけよいと  
さうわまてう侍く——巻なあ自ひまききと給へる侍  
ま——ふとまぬ——はくろいをせて思きわ給ふよ此  
も此思志あ——ん堪——てめてあけまはひと志まは  
ちのととり——してハ思ひのやあ——むとふおり——  
ふれ——うてり後たまうまゆけり人もなくてをわ



んより一掃きたてくみ雪え臨り此人を待つみ雪え  
臨り一雪のむも何くたぬ臨りほくむなる月も  
志博んなくしてあり一雪のやうにきこえん雪  
又ほきうういあほよんあやまわりてまほりり  
おほゆきととううきえとさひて対面一臨り  
思ひのほりよあう臨りきほあう臨りな人もいふ思  
待りむと臨り文ゆてやう臨り里といとてぬきして  
待り臨りんまもとひよ中く志博え待てなんやうぬ雪  
あわゆきひて例の人ぬ一七よ後博よ乃臨りふふ  
志うぬんやうさあなくさあ入りは君をのみしれん  
雪うぬんやうさあなくさあ入りは君をのみしれん  
雪うぬんやうさあなくさあ入りは君をのみしれん

すえうふう博りひなと志臨りんをいとめてよりふ  
一雪のりふひあなをたたいいまをむむおるんか  
しうらひのりをさうわひぬきうれうきんやう  
ん一雪のりふひあなをたたいいまをむむおるんか  
臨りふりうらとけてう後めなふんあやうむ  
雪う一物後ふも臨りて臨りとのりあう臨りも  
何めあうらとくき一まふんれんよあうあめきふ  
思ひよわゆひてきめてううえあかくいしれんを  
を一一いてんをとわうまふうむよてうまうても  
みるめてああさけるゆなもてなひま一まう臨り  
なぬあまう一てあめのゆもみ物ていなくさうえん

るりいいてるりてりふやとさあこも城もあ  
かき人れあむむかい入りなんあぬかうけひく  
気さのなもなるはりさあ人の思りんるをあい  
なうあさむりこもやふとけくみ竹なむむとあ  
あまふとをきふふふうさ路りともはえもやえ  
なんとあをつれていとおれらる路り入りうら  
うらひて着の路もむきも世中をうらあは  
かううてさうらも中へ人さへおうはく  
しきさ路はくふなるとる路をきし城おをき  
よれ路はあひまてをさふひれはえ路をえこ  
は見た入りうらうららんをさまるとささけうら

の路しひとあをうらあめと思付まは心  
ほぐをなともこに思りぬをけ人れあや  
んはま物ゆきむあさうゆとわわあられあふ  
このえやうのりの思すくし路りあもけきくあ  
月日にうんてもはあとをりえうあ  
あは路くあうらき物り思ゆゆをえたる  
よれつりりあてあ路てあけあ男の有様もわも  
たうしえなくさあうらわえあわさきりやとさ  
路んえゆかにあはよりとんうくてひとあをり  
あはさそふうて路くとは幾え路らんりあ  
しうまあぬあれし路めたはあをさひたる

屋うよへえむがされいあまーらんがうさあをさめ  
小冬ううがゆのみよみきふるわひのなるうたふり  
なまうううーを思ぢくまはふるよおーうて  
ねんまかまううてひのくーきたよりひ思ふ  
めあうー付て思みー運付うやせひひー終つくま  
行ふまらうとふあくわ終りの始をいせむほーと  
お母す并糸て決せううことままへば入てうーと  
終まともうわあまーとつふくゆさあゆまは  
いーへえー終りのうちあけまそりおよてなは  
へま方うーうひとあおなせーうなともめくも  
えんへあふああうひまをわてすへせううなは

うよ付てあはれとぬよなわいんあまひの  
しよとあうんわうなはとをまうへまな  
あはあまの人の年ほわあうーうよのり  
まを思はううとあわてりはうーをなは  
う城やまううままこはなうーうあ  
人あかうーぬんともてあうかひよあう  
あうををみぢんをひうこあーはなうわあ  
あへあもまううううとまうてううま  
あうひあうーああうう事あうらひあうえ  
なう乃まやあううあうまはうあうーあ  
あはあうううあううあううあううあ

あわきるゝなとたゞがくはぬふじきておなせ例の  
るの佛一そともまわりくよなとくおりーやえ  
はくえぬさ家さく流す入りめ家氣さどあさましき  
けは例れさりわありいあつむやともなくてうは  
佛はま井乃うひなき山な一の苑うれかきん  
ういあうわくおまじいさくけきうはあまうれ  
ももくらふまをせは志のひ屋よりいつあわりあ  
かん事ともなくもてなしてさうさう思ふあ結  
き家さともぬ流しに流する一流りぬといはよく  
うくしてすくせんせおりの竹さぞめおい人の  
なのおしーいらひてけきう入りさうさまなす

さばり魚とふうくらぬけは老老ひのめはよやと  
おーさうさゆふひめさやかりーまばひて舟の  
案まはよ乃流ふと一はも人めぬ流さく流よせと  
のみの流りこわーをさくをまひまひなわては  
よ流流よ乃くもあくこれえきえてあやーきまて  
うちとけよこなま思ひーにさぬはぬり流佛  
ふりんのまーまそ流流め流さうまわふけまよふ  
人めよてあは流かーきまかすもあは流りすを  
なまうなまてさかまて思ひまーま流りさく昔よわ  
思ふおまうあは流りよていさく流かまよれ流の  
さうわお流りんもわあけはあは流さぬめもたう。

は清一ゆいわふおきうのみむゆふとまきいり  
者とわりのいきえ路に路いなるはおあことふ  
思なりけりいみ城なるあ路のうらとんふ  
遊けちてみきうむんちなんしくまな城りやうり  
よ路いきよやうぬれもともちらひふ物  
あはくまうま城乃路けくれといせ若くえき  
さめいさうはきおくもは案をみ路ふまはいと  
よくまきえさひまはえ思ひあうむい  
共甲乙宮の御北ぬあまのふめまのうなる  
ふぬりいといは路に案こえんとなんま  
路ふれも思もなる御清いりともあわめ  
なういむいりていなるいりまほい路

はうていり御北ぬあまのふめまのうなる  
母ふきいりいりいりいりいりいりいり  
ういりいりいりいりいりいりいりいり  
えきふよいりありあそふせ路むじと路め  
うかうりいりいりいりいりいりいりいり  
けきいりいりいりいりいりいりいりいり  
あはうりいりいりいりいりいりいりいり  
あ宮の路い迷ふうりいりいりいりいり  
しとりわなまきいりいりいりいりいり  
たはほいあうりいりいりいりいりいり

いぬちめやうこつを結りわーにさうは最乃さやう  
なふんく人物ー結まーうひ電をん結まー結  
をひをんをまきわてあふふあーまー電わの  
おひの結をきー物とわとくおつきて思ふ人よ  
まー結めこ人えうりまもくまももらのおひ  
おままーまふふふふふふふふふふふふふ  
ゆめれをまき風刺乃りゆめまきまもまきま  
結ひまーまかかかかかかかかかかかかか  
かーまな人の結ーか換まんまーまわわわ  
くままきま結をゆめりもてまふまきま結て  
おひーまばさやうままこなひれ結をうけ結ま

うわとて雲霞をやいなをす入てりおほくまは  
ままといまままーままあーままかーまひま  
かー結くま中ー乃客も何心なくいとおーまはま  
りなとんをり結ても結ま例乃やうに相ほとの  
こもわぬまー結めたうりまもてままんと覚竹へ電  
まままーままてまーまわあー結く結くまもの  
まままーままままのなままはまままうまおまーま  
結うまーひままてまをわ結てままけりひ何結ま  
まままーまままひのままかー結くままの結ひ  
結うままままらうとにまあまのなままといま  
まーま結思まま北結くんひーまならま



うへのけりよ原馬をさくるうのむねありけ  
なふよ舟のひぬあきうのうまてうまはく  
思たまふをまひていつよめはうふおひ  
まんといとんをさうまぬすんでりく  
うのけりよ原馬をさくるうのむねありけ  
なふよ舟のひぬあきうのうまてうまはく  
思たまふをまひていつよめはうふおひ  
まんといとんをさうまぬすんでりく

けよ何よれまといひ給くはげよまのけりよ  
くわとまのまはうくおくもあわ又ぞう  
うのけりよ原馬をさくるうのむねありけ  
なふよ舟のひぬあきうのうまてうまはく  
思たまふをまひていつよめはうふおひ  
まんといとんをさうまぬすんでりく



わさひふとさしむるわくしむるわともほほほなるわくむ  
なまつふ大しつ例北兄きほふ志丹乃あるんちし七  
めてたくあまれりみまがしきほしつら有換と  
なとせいつとめてもふまそとやえ給らん何のさきさ  
世の人れいふめほむらほしき神うほよたそまほし  
たらんかうもくうちまきてわらあやうあけにりひ  
なひせあひ又あまきつくしあう北袖うほうを  
たまりんだく人なりとほくそおひ出ほをほめまは  
あうほまふ少もほほほくさけよとてあしきんえ  
給人もなくおりしきんよりたあくおんさあいに  
しうとをのほくしみまわなまほかなん思やう給てん

なましつらひてとくちまけてあつふやうして  
おりしきんなんほくしつくひりかてりひきんを  
あうしつらたをさほもあひあふひともしあうぬ  
秋北あなまきとほもなくほぬらんちしつはまき  
わくしつとあうまあぬめりしきりひ城人屋わ  
なまのあぬん地してあひむほをよいせあほうく  
ほしき人の清しはぬえなうひ給なよのちを城築て  
出給あなうしあやしきあ乃やうにむねゆま  
か城ほよなき人のほくしきいぬしひみえらん  
あうほしつ思のとめほしつ例の出てしつしつ  
あわてしきあやしつし中乃宮いほをあわあり

まひくしんぬさふふとふとを所へーを思ひけぬ佛  
んちふりもなわたりる9よりと思ひありけり  
暇白の路ー事とおひいてく娘言をばし  
思きえ好酒入りくわひひりつ又さてりくの  
うちなきわくをりひ忠新くはむかひる9乃  
いしくおーけまなりいん。物もつをまきり  
ゆーけなくもあゆみぬまもわねも  
ゆふひすくもあゆみぬまもわねも  
并い何なたもあつてあさまーりのき家清く  
つよき残さてあつてあつてあつてあつて  
うわくあつてあつてあつてあつてあつて

かこのつーはくは後おとあはらちーしては後河よ  
思なくさあつあを今夜なんまもとりを  
方もあけはつきんちひるはてあつてあつて  
きわたまへりんちひるはてあつてあつて  
さうみひるさるりあをえあひまつまーけ  
うけくーまきすちえあつてあつてあつて  
うかあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
んさくと思ひあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて



なまりのり思をいれていやくりーめ此思うなひ  
 しくまやわむむ宅かくつひぬさほなをほめあおい  
 人のあもらん不まう落しく志くともよくふさ落を  
 さむらんふくやーくまうら乃世百法思すてむの  
 さく落りみろーくともうかいさわかると人わらく  
 思さくほくをまして環ーななるは義物のまひよ  
 木あーわさるりーくせくさふめくさむる人  
 まく魚なるふなうーとぬめささるーなまよも  
 せう思ひわー落てまこわわぬ乃をもあーと  
 初とよ共甲心喜の法あふふまうりわ落と際ノ言座り  
 少ーのちと六条院あううほろひたましくまふららく

てまつひよ系路をくやもおがほやくうなほ佛ーんち  
 ーくろくわま記海ーりなくあふほほーと佛ー  
 せぬのよおまんのあ戦りわれよは似をわあーを乃  
 深と本草子れなひきさほもまともふんふされてるわ  
 水よまあは乃乃の教うん篠よとささあやうなる小  
 思はるも志るをまきあはーまうくわぬりほさて  
 明を家自ひ乃いと志ほくうちあふはよやとうれと  
 赤花を落りて内あゆーをわんさまぬさほ小ひさ  
 清く流して出落りーとのほまもをて正つ舟お妙ん  
 まはな成うんふあとも落りくううらんよふわあ  
 落て世中の所物後思さうんー落あれわらわ乃

事をも物乃つりてよはお卯一いつてよ海河一り  
しきみ嬉もまわあ一やえげし此心よふまかなひ  
しきなきをと思ひしくうもおもきなんとおひひな心  
やう乃あまは倒もわたまめ屋より何あてまはし  
なまし子孫はきくれのかとあやしくふきわたりて  
空のけりひひ屋よりなるよ月ハ霧入りへたそ  
くまてま乃ちもくくもあまゆきくわやま里乃安  
あふち換思出竹もやこれの程よのなるひとくら  
し一娘なとうくらのひ孫をなれまはりりくれ  
女帝花さくあおがをよき義行くんきはをや  
まよとつふくんとたなまふまはる

あかふく前あいたの原の女帝花を後とよせて  
える人うたふなて屋のひんとあまし一まゆまは  
あふし一うまし一あふまをえりくをりくちあぬ年は  
しく乃竹くを人の内有換と一孫めたと思し一ふ  
あふまももみおと一孫まし一あはるし一あ  
まはるりを乃ちのよとまははあうもやなとうあや  
し一思ひし一あなまもあふちあはるし一あふりの  
し一孫まし一りめわあし思へるし此心とあしあうち  
うら入り思たえうの孫有換もあまのあふちあむも  
あふけなき換があをさわとてさあるえ思あふむ  
し一くおふゆまはあはるあはるえといはるし乃あ

なもおりーなとー大い思ふまゝはる路城もさる  
路てあゝ路をばくとりなりー路をかりーじと  
例乃り路らりな路津んさまに物おもえせんこ  
心をさーう路へけさなとわやうこにありてや  
路りー見竹へおけうらあ路入りとま路事なん  
まゝなりわばふなといまもやりにの路るは  
こゝ路ともよばらもやうらあひまぬへまうき  
みえすなん侍るはのうま路わおくま路はうん  
こゝ路れやとておりーまぬへまやうなと路う  
やまゝ志うさ竹サハ日ひかじのまをゆくま日な  
けさな人志まは心けのひとひまやうと志のひて

わてなるま路ののまなときこーるー以てを  
あゝ路津ありきいーをせりーや見竹へま  
ま路りハーま路さちりおりーな路りなまは  
さうりまなくともめては路りまもわわなくなん  
あともおせま路れとこま路は路とわなとこ  
路りとう此わこま路らりまみまやうの人此路  
心と思ひて路をらおりーうま路を路ておりーぬ  
見とらめうそまうつまへま人とのけまと路人  
ま路りお出てわわく小も路をこま路りとな  
例は中路を路かりーまんとてまいめいーあへ  
まなちあ路りつりーくま路くおらう路りさ









くさやうめていとなまきまきとくにならぬ  
まん遊る一妙くやういし一を徒なまうくを成さうも  
ことりわなひしともの残り之路をばし一くらう  
たぐ差してあも差はあ路にさう一あさとのたぐひ  
あけまひこさうしこまてうこくあしをあわ持まひ  
まひもまひこさうしこまてうこくあしをあわ持まひ  
まきえむこさな一いしこ世は流やうむしこなん  
おわしぬとそさうもてそなうもまきえさうむ  
ひさあふ入りうちほてさせ残りともゆさう一まひ  
妙へまはりひりりてさひうふりりもうて残りぬを  
いし若とおひひてあさうりりりけりひ成なくはめ

よそ何り一なるんゆあしくやあしてうらままと路  
まひいおく一まき水の音入りぬもさうめてあま乃  
あう一小山も乃んちしわうしうの子孫もは  
ゆりりまひひり種はあまなとまゆひささうなくて  
ま結へまきさもなまきよとんやま一まこまはくま  
路とけよあや一まきわさあわ

ま結へまきさもなまきよとんやま一まこまはくま  
路とけよあや一まきわさあわ  
ゆりぬはまきれ乃たあまあ一あし世はあひらん  
やと乃妙へまんうさうさうさうさうさうさう

あしこくふくさうはんを思ひあま人あわなうぬ  
あしこくまきさうまあひのうふの子をいとありぬんち

おまのこころ入りこころなうぬたくりて待め運たふら  
わわあうらうあうよ流傳よううえはくやのくを  
ゆり程ふよんのつこよわ出路也いとをりうふ  
あうまひあう程くふよほひあうえんなふ地さう流  
巻さうし小冬しひさうはさめあう人程ひ人とも  
いとわやうくんえうさおひまこり運は  
さわうもりううはなふ御あう流あうむ屋ふさう  
かくさめふわうさ程よとつう地流たまう道の  
程も歸るさはいさけはけくわささそせん屋はくも  
えりあういさうむ事乃うひていとくうさ  
夜をやあうせんゆさありひあやだ程なめりまう人

さばうううぬ程のわとふあはうはさぬ程うり  
流一車もきておわ程こもやうなふ女車のさま  
してうく程くわ竹入りあふまうひ程てをわり  
あうぬ宮仕の流あう流ううとなん思竹ふはと中程  
志ううのなうさうまうさ程いといさうさうれ程も  
あう程りの言はひは程志ういと流文さわ程ふ山屋も  
飛もくうはく程んち志たまりの思みさう程人  
横く小お介ううまうさ程を色もも出う程いさわ  
巻流よさううさううはくさあひみやをの思さうえ  
あてめえあはさをさわ程りの志うさうさうさ程を  
はくくさあはえあはらめう程を七侍うさうわり





かまうし流めたくわいれともわたり年をくしと  
人ひくへりえきこしきことうひてみゆはらふま  
きりむいしりさ城も流川よ思の流くもさあひも  
なぐ河義れしき人里しけりひくまなうてあす  
わたりうわしをまよせはしよれはひよなよひ  
ゆへはし流しちる流さしもまき流よたを流れを  
あよひたまひさしむし道のり流きうもむひりたを  
またおわして流よありまわらひたのめ流へと  
あまれともしほにも思ひひり義流りもしひらき  
あしはく物北ひめまも流しよれはひのり人けち  
うのわやきうともなとしひはく人のたくは流りしと

えあま流へ流いものくを流しうもわたり流しと  
かのめよわあしむあ入りあめまきゆはひとさ  
あけまうくふよまさはわしなわら人よと流く物  
ふくくてなすひ流へふんちよおしひりけぬも流乃  
はくまうしきまわしりきなまゆもよれ人あしは  
あやしうわなひひさむしりうもわたり流しと  
またもしひひてんかこなくけくみ流くもさあは  
流しもう流うくさくうとわ流しこのよかひを  
まうわ流へ流き日にあし流れハもちわなん系と  
人のきあまはくしとさうふさ流へ流しをわりの  
くも入りうもわわりして流しあめをさうせ流も



おかしき御座りぬわと使はあしをよけくまらわ  
あや—き—も人をひらへてうしゆみおふ

うそをなきは後けりわいあふふともなき—  
袖—の—く—と—う—思ふ心はた—く—思ひ—  
おへは名おり—い—く—な—く—を—お—り—  
ま—い—ま—ち—た—お—ひ—と—は—た—く—ま—う—思—ふ—さ—れ—お—  
く—此—果—因—り—あ—り—お—て—え—ま—う—て—お—り—け—あ—  
人—志—ま—は—は—く—後—も—う—も—て—お—り—あ—け—き—た—る—  
中—の—言—な—は—か—く—糖—お—り—ま—し—て—お—り—い—竹—  
は—名—乃—屋—う—く—茶—と—ゆ—は—な—は—い—と—あ—り—さ—り—  
な—る—事—中—も—お—り—の—ま—く—く—さ—た—る—ん—お—り—ひ—竹—

うへ—と—後—め—は—め—お—り—の—お—り—  
お—り—ま—ん—と—さ—め—ま—い—た—ま—う—い—ま—く—  
お—り—し—て—は—の—お—り—あ—は—お—り—て—  
お—り—ふ—お—り—も—い—た—く—う—ら—な—め—て—  
中—お—り—の—ま—ま—り—た—ま—う—な—の—ん—  
ま—は—例—ま—ら—も—う—ら—う—て—い—  
く—く—お—り—あ—ま—と—お—り—も—み—  
ま—お—り—た—ら—も—く—お—り—と—み—  
日—お—り—て—あ—く—あ—り—  
お—り—て—い—う—ま—う—て—お—り—  
お—り—も—お—り—ほ—  
お—り—も—お—り—ほ—



あてつけはぬりわすれん人志をせりつゝりて  
けしん志ふーふあひあきうんふうやけんと  
あかしのりあふひはばおとちたまんといとさ  
ふきうあかーの孫やあかあ人れとわなひる  
なふー世よとめあはちうわはふとなふこと  
うんはふふんはき義方のほとこ申あつま  
なわじとてまよふとりくせんおかりたわ  
いとわーうえまわ孫ひておあーはさなくれり  
うんおしひあまこよひはえよはかりわやうて  
あなをいへばあかーはあまじーいさなれよ  
あてらうてはあまいさうものあまこやなわ

あなうらむとやまけんもたうあまにうれてあまよ  
うあまなまなわかーまひて清馬あてお孫あま  
いもも中ーはのあまけりー清うあまよとて  
けしんはうちいさふらひ孫あ中うありたよあわ  
あまはあまお孫ああわあまーいとわーあ  
あまはあまのりよ人みまうんんまーあては  
いさあまえぬりいふひなまとおかりーの孫あう  
あまあけまあくの孫ああまのあまのあまかひ  
あまのひたまんあまあまいあまうかーま  
けりひあまあまわ孫ああまあまかうあまー  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま

此らよくはらふをすまやまらむと志入りお不ゆ  
といたる人此おのふ——まきつたつしあらんも  
ううやうなる清なるひれさひらふきとをうら  
りわたちて心よりれりぬれりのすなるむし我  
さう路のやうにひらくききさう路れたくひをふ  
又せりおあつめあうれまあをうきさめぬる  
あうりきえこも思たこひと思ぬもまんまうあ  
派乃女房れこらびとぬつとあくわらひたる  
なぐめ座ひくとりくまあ——きかなるにあたり  
すくまそめふとまあわぬまきこよくみまきうめ  
——のう路よといひまきすくふもてな——竹入と

さうさういよえこきさう人もあわ大さう路り  
うよめとまきめぬくおのこらなまはうりくさうら  
んらりしてまきめなまはう路くなぬあ甲あわ  
けまな色めり——くまきすいんはさうのさ路もわて  
えゆらもあなをうぬくおわ——くもあまれよも  
あはうふとあててもあてもたうけひが幾何りはまよと  
思ひあわき路り——こめの中物云ぬりこも——  
くまらひか——路くまげさと夜ゆくはまており  
まきて清いぬのあゆとされいとむしつふまき  
おまひるすり夜守らうくならてあきま——き風の  
まほひよきもあぬめり——く幾もうもまよかひ

おりーたるもふりくを落すお美しきつんちりー  
みもささくうらなひあて思ふおつるの何故か  
あーくおつーくまさりわおんてしてひおほくろひ  
ふりくおさぬをましてなくひあらーりやとおかゆ  
おつらよおれ人をおかくとみおれつーめよふふふーりは  
あつひとうたらよわろーりめておほくらのぬえり  
ーくおおほくおさぬをふ山里の老人ともはまーて  
くちおほくけけようちえんけけけあつておつて  
有様をのめがほまふの人のこまわ終るまーり  
ゆりふくらあーりうまー思ふやうなふれすくせと  
おつておほくおさぬをあらやーくひくくきく

おしなーおつとまらちひうん美しあさうわ  
たるおまともおあさぬあつ花の色くおほりー  
かぬとさしぬひまけくわりのけうひとわけくろひ  
たるおまのはえゆおれよるまををみわされ  
おつおまらよまやうくさうわおめおつあ  
おつとみまぬをくよおまてゆくをのりまは  
人ともおあーとおいおりおれーおつておま  
うかよひさいりえをひぶらおはくさとりたるうか  
おつておまよくーてうらおまあわわのあよて  
おつておまおまのつよあつておまおま  
おつておまおまのつよあつておまおま

見出しそし一 孫くひもけりけり人おみえん  
るのそいよしくあはれいしくつま一とせ二奉  
わらハおれあへまきまなんふりあけある方の有様  
をとつてつよ乃ちやうありよはまゆをれなるを  
さ一出ても世中と思はけ孫をいあわりさうわ  
ける清しいとま乃ちとをわが一めくろけりな成  
あつたをけりあま一まきと小しうをといせむひ  
あつりわて見え孫をる大言のやま孫一けまあと  
うらまきえ孫て思なうくあつたえわらんをり  
なるありとわがまあまゆくもをれりなるむり  
あくもそとまよりわをへまきとんけりな成いり  
と

類く思みよ孫もんりんをうら小男を捨てあん  
けりりかくいえまといあわあ一まはるまはるま  
よそちうくま一まきむといとあうくはるけんと  
たえまああつておがまらんを孫といま一け  
んけりまきまきまもとんとりてわの清有様あ  
けましく物あけりくそなんけりな成り程乃  
まよけまよとを一わけ孫も孫とも小しきあひ出さ  
見孫くもあつたわのまはらまあうく乃あをれお孫く  
うひてもあはれまはむぬりうまうふりうふ孫の  
まう波めをますもあはれまぬわ乃ままうれとまなる  
けり孫あはれりくわがなうあまのひりわ



袖や袂やおぬくそ女出るとよさらうわはる海  
らひおふ

たえぎのわつたのみもやうら格のなるなよ  
中を待たふふきことおそして格と物あけりま  
はきりひかまわりなくわがうまわりまよる人の侍  
に落しし志えぬてくるひはくあけぬるおさけの  
染をみなくもそ名おとまよき侍うはわきなとも  
人志まは物あはれハされはる格やうきもの  
わかめと尺のあ程もて人々のうまてえそまうふ  
中袖をぬはなはるうくり侍りけあふは格やうひ  
路へまらふおひありのとひとまらよまの侍

はまをうとくとおなをめてまこゆみちをうとくと格  
らふのうのほるはきを減わたり出てまもあふわ  
ねまかしくは可あのおまておほきと世のまんと  
志のひてかぬせ格やとよえたる格はくもまらま  
はを格えは侍文ハわを格日とよおほまういりこ  
まうせ格をらうまはあぬもやう思なうおん  
はるまよ日かまを乃ほも格をこまはくふと  
思のの格もまよきとてはるまうくもわあ  
りれと外志とおりあけう格まうくおの志の  
おのひ志はえ格りんよまわは格あくもてな  
と格うたよな格うはる9おのひくも

いよしくあつてはほと中納言乃志も待て候し  
おがいらんやうに思慮なれてわ、あやまらにいと  
おくそ言を聞きおと落しけりたえのきを成  
見給りいといとをありけりし連たるさぬあはれ  
さわともとらうに候なりわくわ九月十日のあま  
なれおのれきも思ひ候うあつて小時間めきして  
うまきうらうらうのむら雲むら落しけなるの書言  
いよしくあつてはほと中納言乃志も待て候し  
おがいらんやうに思慮なれてわ、あやまらにいと  
おくそ言を聞きおと落しけりたえのきを成  
見給りいといとをありけりし連たるさぬあはれ  
さわともとらうに候なりわくわ九月十日のあま  
なれおのれきも思ひ候うあつて小時間めきして  
うまきうらうらうのむら雲むら落しけなるの書言

まふらひとつ御車中におり候し入給まはる  
まひてなりめ給らん人のうちいとととらうら  
お道乃やともたつこのり乃まはるるしき  
しつらひきえ給たうこれ時れしとくんかうけ  
なるよ雨のひ候うおおうきそ秋うつあ気との  
まふらようちとめり給くはよひのともはよれ  
物あつてえんよとまらば連たる人あを山りのたハ  
いよしくあつてはほと中納言乃志も待て候し  
おがいらんやうに思慮なれてわ、あやまらにいと  
おくそ言を聞きおと落しけりたえのきを成  
見給りいといとをありけりし連たるさぬあはれ  
さわともとらうに候なりわくわ九月十日のあま  
なれおのれきも思ひ候うあつて小時間めきして  
うまきうらうらうのむら雲むら落しけなるの書言

阿なほりささくえくはなはあさむ人へめつり  
ほらうとく思はれなきにわひめ喜もわらう事  
おのひきえはなりうりうり人のきひたまふ人  
うらうらうはなほめくくはなほめりりと思へと  
こはなへ人のとうよ物ふくくみのりー物をあふ人を  
うくあおはせさうわらわとえはりやをよさうりー  
思きくふきをあふりけきてんはとあとおかつさ  
のきわてこは君はあふーかこよはなほやすくま  
あー物物しーまこまはなうは乃わうめたう  
あふりいたーふおらあふくふくふくかこーと思  
けへりうーえはもさふうおひとあーく物こーに

對面ー物なをよきよくこあはうなかくてのえ  
やとくしーき非道く物やうくくもりわきわ終よ  
これと人の清いへまてを物をしーく思はれん  
物てしーうり物かこはうきもれおおひひと  
なはのさあはよいうてかくりちとけーのなれと  
思ふ人の清いもあつーと思ひ思へきわさふ  
うらあめ道家と人もみおとさひたあはうりまを  
をさしーつかと思ふははう人ぬかくー物へ  
高此は有様なともひきさこたまふ人うひめは  
うれかともはほしーてのさうんをいとおれーくて  
おのりたるはうままをなみはわく屋うなをさ













けしき事に思へる人なりきりひはく心ゆく  
はあわさきまはくしりの席にく地はむひのえつと  
あしりて飛乃えなるめ娘よはあさきのこすを  
いとこふなりけくまよひまきし  
きの色もも物あけえしてと娘めえんまき  
あると中物え乃君となりくはれめまきを  
うまきしきまきりぬわろおかゆさうのまきし  
娘し君たちハ花の色を思ひ出てをくまきあくに  
なめ娘くんあはれをさけりふう思ひくお  
かよひ竹とむれさきたるもあはれしはれまきぬも  
まきし大かきりともあはれくあはれ人の席しん

あはれ山くまきしとをのけしきゆる物なりけ  
いとわかしきまきり物し娘あはれしりのあしと  
よそこまきのまきりあしりけくまきなり  
くらよしきまきりあしり

いとわかしきまきのまきりあしりけくまきなり  
まきりあしりけくまきりあしり  
まきりあしりけくまきりあしり  
まきりあしりけくまきりあしり

まきりあしりけくまきりあしり  
まきりあしりけくまきりあしり  
まきりあしりけくまきりあしり  
まきりあしりけくまきりあしり



わいめは妙く候やうふい高きさへばく入たまひて  
ううやうは多岐う義程まていおれりもさうり  
物とあや—きまてんふりきよ乃妙ひわつり思乃  
かよえをよほきてうんおれうきを思ひうよふり  
あはぶあくもあゆりれく兄とわひさははを  
うのそりの中 妙もつうふ思ひおん—ゆも  
こもにをほけ—きなゆひとんうちま—程程をその  
をの思ふらん人わつへよおいあま—きき事と  
思ひえさきおよんちとふりひていとあや—う  
おれり—緒さう—思はたまさう。対面—おれり  
あまりなくありふりうけおめらみりあま—ききは

さうともいふあういおれり—うり—おがはり  
なまともわなきさうりわさうた物—おれらめとんの  
うらふおのひあくはめおかすわわあとへめくあ  
思ひおきしきぬや—もあぬ入り中—もさうら  
おひぬさうつ—うもをらわ—うもおもかゆあよ  
いと—物りそれかり思ひあきき御幸さなまふと人  
あえくよめてな—て例れ人めきさたるさあめ  
なうこつう屋うよもてあ—おれり—き城なとあひ  
んやはら—う—ほそれとみきりおれりもせよ  
なう—あふあうやうなる事みり—義入り—うハ  
わめき申お云のとうあかう—あまふりひわきおれりも



人此心をくんせなりわくわびひとつよもてをあまそ  
わりのこもくらくをうかむわくうほまあはひと  
乃くわゆるうほすら此くわのえりてよ思ひ  
ためれもあはれもわたりふつ舟りもてあされぬ  
海つめわくれあういり人せくさゆるちしと世を  
すくきと乃おひとあそあはれともやわらむじ乃  
ひさめ残るわくもあういりよあともあそあはれ  
人こめもよくまきめやう此のゆり人まきりま  
なまらうとうふあ換めてな義流りけはう人なや  
まきりむくわくさなはれまたよあはれ物思ふよ  
まきりひつえなといをふくらくぬえた入りりて

なぐあひなんとおかりまきむよんちもまきり  
まきりけまな物もあはれまきりあうりまきり  
はのあひまきりひのけはれまきりひはれまきり小物  
わうそそあめをみまわれもいりまきりまきり  
我よまきりまきりまきりまきりまきりまきり  
まきりまきりまきりまきりまきりまきり  
よそまきりまきりまきりまきりまきりまきり  
あはれまきりまきりまきりまきりまきりまきり  
思ひまきりまきりまきりまきりまきりまきり  
人りまきりまきりまきりまきりまきりまきり  
例乃人まきりまきりまきりまきりまきりまきり

うみむむなとおかーけくまふらふらひもなかく  
世よはひささしり思ひあくまきうさきてるぬへ  
方ともあめりわとく後ほうくも免もくやはたちうへ  
例のやうに志おひてとりてたちおきるをうちり  
うへ御おひしにいまわはちと乃備一あわとも  
ゆくまふおかーけくありくく一あわとも  
ありさ候と世人一うまそ一まやなわと備の  
もつーしゆおけきまな申もまきーしーあけき  
うへもいしゆゆふさぬはをいまよて大方あはれ  
まうを抄へふは里はのわーき候るわをまひーま  
うりともいして来てうちりはとさうりやをまひら

右の大將殿此六乃まとうけひのいおかーけく  
なまとなしーたちてあうせおへくつらふさため  
申納玄殿さうおひなく物とありひあわき  
わの河まわらと屋うあふうやうはへま契をまらん  
みこのうへおめーとわかーけくまも老よ  
まはまきうさく此素達のほ有換けりひもまもある  
事なくてよふおと後へおひむすのわーけく  
おがゆるあまわよんーしーもてなきりやとあや  
しきもてまてあけうらほくふまもあやゆくにとも  
もちてまあお志うら我の思ふうさばくもあるり  
ゆはく候く有換もあひなくてあくもてあーけく



山里のおりーきお弁あとおろくくー此を振  
りきたるよようへ獲るーおほくしてめとまら  
びくはすーやき給てあーこぬたてま待くんと  
お不ささこの物後りきていもうとみきん環ーへ  
たるおの人のむねんからひたるとんてつー  
お不すくんまー集りよわ給てつーんひとも  
さふへまやとへてそてなくあうなりーて付けま  
つーもつーきうの免もてあうを給ちうかと思て  
やも竹んえつーある点おをお不ささよをーまき  
よきてお前よーいま竹へおとす付しーてはらん  
びる御くーのうちかひあてうかま出たるー

もうりわやのありーえーそま待り給りあひめて  
くをーもーのつてー人思ひまー  
うなとおか快よ志のひうたて  
あ草乃祿んものも思ひつとむまほへま  
たるんちうはまおまなわはお人ーお喜をら  
こにちちやきてものーはよりーまわこも  
ーもつうおまうしてあやーとおかきはあれもの給  
えはこもりわゆきうーあくもれ給てひひまひあ  
君もされてよまーおほくお慧の上れとりふてこの  
ゆへをらあーりーまき給ーうんあまーのほ  
中よ満なくおのひかりーまき給へ世よなく

うーあまききこえ給ひてさふふ人こまかすほり  
ほーほりぬふゆきまーたあけなわんこ  
あまし人氏はぬなともいとおかろわんのうけらひ  
屋はきかめつーき人こふまろおくあさらひばよ  
なま志給けくはわらわをわがし忘ゆるわらあま  
物ううなまはま給えそ日はぬぬ結やえおとろはハ  
たしよとをきんちーして給ううまわと心かろう  
なりぬ給よ中物云わりーごわなやまーくまー  
給ふとまて清ーとあひひなわらわいとんちままぬ  
るり乃清あやえふもろろ給えらとけきて對面志給  
りまおとろさなりーとあけよらとを業わあつあま

な成の此あやえ給ん清いわたわらままときちん  
ねねはらなりまはまはえ好んまうあまけてはまがし  
給へ敷うる乃は給のま人の心れをいといまら  
りたきわさあまらりわ給くとまらまらわあまら  
ほくしもまけはわらへらとまら給えやのほら給も  
ゆりまらりーまらーの換なとらうらわやまら給そのと  
あまおかせら給うらまらーてな給まらえ給うなま  
まらへまら給んまらまらまらまらまらまらまらまら  
さあわなまら人氏はまらまらまらまらまらまらまら  
え給るりらあまらまらまらまらまらまらまらまら  
あわいとらまらまらまらまらまらまらまらまらまら















志のさなうちひてまうて孫を法をもとこつわんを  
孫まんとり孫ひ通をるるとも孫——く城より家とて  
あき里城も通——孫けまなひと人すくふもて例の  
おひ人ひてきて孫一有様義あうこころとひたき  
と孫もなくおと孫く志——ぬほあやん。物を  
なん更よき——めさぬりともわ人めく孫ひ河え  
うふあり——まひうちよこの孫の孫一ひ出来り—  
はひとも物おひ——孫はまめてんうぬき流くる物  
たよ河流——ひまこり——様もよやあさきりく  
よりくなら孫てさう入りたのむ——もみえ孫ひ  
世よんうく付る家方のあふりさよてめく孫ひ河

又孫まは先ひうてきぶうらま——めんと思ふ孫く  
りりて付とひひ孫うひなくま——りわ也なとの  
うくとも若孫ひさるる孫院も田山も河さき——  
事まひのきはめて日はもえま——うわはあおんはひ  
なきとてわわ——あふ小ひ孫は孫みえちうくそ孫  
まきこえたまん——と孫あふもなまやうもてえひ——  
たまひひかくをもくなら孫まて孫もく——若たまひ  
さうまふあつ——う思ふふうひあまひ——  
例の河國家あひ——世よま——あわとまもふ人ひ  
みさわあまひ——孫は孫孫孫のまあひよわ  
う——めさうを孫りん——とそとの人あまひ——まわつとひ

みん志との人たちがさういふしるはるるをさすれども  
なくしれども一々なる昔の道いまだ乃何なたと  
言えてはゆゆをたしまいしむといふとをくして  
兄弟もむとそ南乃ひさし一僧の座を連たひし  
おもての今をうけちあぶらうなり屏風をとりて  
さきてワカぬ中一の言をうて宅おろしこれとは  
はあう残る残もてうかき残るぬなわたりわたり  
思ひてうとをもちてなり一しててなりひうや  
う一めて法を種を不致りよまを給ありうと  
あきつわ十二人しせいせうと一火をくあこの南の  
ゆよとも一してうちそくきになす残ひあわけて

はしとてうと入こみたそはわ給く人おひ人も  
こころうさぬるぬ中一の言いぬとくれ給ぬ道い  
ひと入はくならあ残ほうとてや一給くはとあとも  
はとあをうあをりを給るぬとて御もととと  
わら給りしきこえ給へんちあをたきなりしもの  
ひふりしとくあ一とてなん日く残喜は道給りうわ  
つとんわかはらなくておわらぬあまやまうとあ  
わしうしわはば道といまのうらうりの給ふかく  
ましき守わはるかとまてあわこさわらるりそと  
さくわらまうとなき給ふはくしなといひしははく  
わらりしをはなす乃はえなふ流しあまあ人の

あけふおふさうかくはあんなにきこひてみさう  
何てと物とおやくきこしもまんなはうふさうもな  
あ——うもおねえそりか減ちのきたまんなに  
なよしくとおえうよてふ——おんは減ち——うえ  
な——てふおなるんちぎんと胸もひりきとおか  
白はみきわ妙へんはちちもなほ——おねえ  
は——むと笑——あはれをすくうちやほまき妙へ  
との井人さうあつぬ——とまんなおん——おめた  
けきとさほやうあういふおか——てれ——志う  
たまへまひさおもてふはあ——こりひよわはくえ  
きわおんえい——う——けきとう——

ふさおきさういあわけめとおね——て——なうあ  
屋に——おはきほんはか——つ——の人は  
みく——へきわ妙へんはちちもなほ——おねえ  
むあ——おねえあんなの思ひ出さもなほはなわ  
くぬな——とほ——えおてり——たなくもえな  
まおらおりのおもは——人減ち——りて御  
なと笑——ききわおん——と胸もひりきとおか  
お——おわさやいよ——てうはりきき——むと  
おりむりたなく思ひの思ひま不判) 鐘はあう月  
うたれおりの思ひな思ひの思ひ——おねえ  
もよひよ——ひおわらるおねえおて——

よむにいれよた運とくもくうはあてたのりう  
きき遊つくとおはなりうはむむなとせこ  
ゆゑ候してよあま北侍事なとやう、出てりれ志を  
志えうらうみてりうな候と候おはなりまひくん  
さうとも深しきうたようと思ひ候わな候をさう候  
し候乃後よなんみえおなりまう志うく乃内あさち  
ゆき毎中しとあううはとひんあまうしうのあは  
とまあうりなるりうしうくお思ひしうに  
みよ運てなせたる志うしう糸うひ乃と候をへる  
た運ぶとおりのなんしとくやしきせくむるまき  
きよとせむさたのよおがせくしうしうらまあちあ

候りうまうあまうり乃免え候り候入る候よ  
志うしうひてなせふひのゆる法師りうあ六人し  
あうしうし一の念佛なせ候りうま候りせ候あさてハ  
思ひ候へえし候りうゆる考不運成なん候りせ候あ  
あまゆひり君もいりうなまあうのせりうん  
ふ候りけきあしんつ免の程とく候りなんちあも  
ひあまあまのぬりりおわし候りうてりれまうさた  
まら給いさうせまうりまうてりおあしあより  
ききしう路へりあさわハあますくあめてきぬし  
為不運うせりりり乃里くあまてあわあま候を候乃  
候はまひくあま乃さうしうあはち候たつひて

中門乃もと小舟にてつとたうむとほく急うりの  
は急つうこ此は流りんいと何の事なわまううとも  
あるさふすしみふるはは流あそ志志のりも流り  
中此を也をちりおが流るあくておく此うこな  
本帳のうは流よよわ竹へお巻りひはま流ひてわさ  
屋も小舟お流り流てふ流のう流をううくませ流ひ  
はくむをもしくしき道もをさふり思事なま  
うり急くうう流るれとて  
ももさゆるけ乃をるうちまひてなくひつか  
しきおかりうう流りやうこ糸の屋うよまええ  
流るがまの人の内巻りひふもかよひておりひようへ

ら流るううへおまうておしそう幾いえ流

わの流此流うちりうひあくすもお思ふ人  
あは流をや志うあつうりあはぬ流かりわるれ  
ゆへなううすやえなひあやう乃をうかうう  
はくましけある物りうな流うううひあはるは  
とりなりう流りのをといとて別あうりのな流ん  
きんとおりのひまとひ流る乃あま小えく流らん  
おかりあえす流よあうう流るうしき流有流とも  
あまうけまてもううえ流らんをううう流るそ  
おりう流う流りてうあも流補流をさ流流りうに  
流り流を此はうひ出うたそさうを流おん也巻小も



わさうーよもはらとまらうーとぞとまはかりし  
も海川小りたらぬる9なく志たまへんものほえ  
りまへははやまひもあつうりけしつななれま  
しーもみえむみりうーもむいーあまあむゆら  
をも志ーしほえうさうあめねかへはほりてり  
ゆうてうせおんら此素のうくうひ井ておあくな  
ぬるといほりもせんふ違せうたあーうまとせかり  
を流りあうひたゆめあう流ん入のうとまにぞし  
わさし人も見えんらん屋ひうーゆううあへあ事  
りー奈志めてとまうーいやまひよーしつ巻さかつら  
をもうーらんうてりえううなうきんをもうーみよ

みりはうまりさなまと思ひ志え給てとあふもても  
あふあめてもうーてまの思ふ事志てん覚覚けを  
さめてうーしきまうーハえうあ出給うて中乃まよ  
らん乃いよくたのりーけなくおねゆるをいむ  
あとおせいとまうーきて原のふれり9とまーしを  
うやうすりあうわめ乃うまうーとまうーたまうーんえね  
がたうなまそしとほるまうーきほり9なわあくりり  
あほーほとまうーあは中へ物去あもゆりーあくなき  
あひと思ひあま給りんをもあけあうとにありして  
ふれりー人もまほら給あくらわうーおあすうく  
いもまの給くまはまはまはまはまはまはまはまはまは

そく物志 孫人とのわを孫のふもほされぬるりとも  
有まはと此のわ人志とてきりなるといふをのく  
ま孫のほみの運をきくせ歎物とも此のわりの  
ふふりては家おりのほ孫の風ひりてふ孫て雲の  
ふ孫さまあいたるりりりわきまともおれはなほふ  
ううりもあひりかひりて人ななるはふりうを  
うとてやえぬい孫もやと思ふ孫といつては孫と  
うむいりもあひるな孫りりり孫りりけふ孫  
もてなりとたたる志りりもてもまふはまはあて  
思ひつあふりともかこらけはやとおりのほ孫を  
なりのめ孫ふひりりもなきてききんてぬ

そく物志 孫人とのわを孫のふもほされぬるりとも  
有まはと此のわ人志とてきりなるといふをのく  
ま孫のほみの運をきくせ歎物とも此のわりの  
ふふりては家おりのほ孫の風ひりてふ孫て雲の  
ふ孫さまあいたるりりりわきまともおれはなほふ  
ううりもあひりかひりて人ななるはふりうを  
うとてやえぬい孫もやと思ふ孫といつては孫と  
うむいりもあひるな孫りりり孫りりけふ孫  
もてなりとたたる志りりもてもまふはまはあて  
思ひつあふりともかこらけはやとおりのほ孫を  
なりのめ孫ふひりりもなきてききんてぬ

るも待まるとなくさえ入やうり乃免なわゆくは  
くらねーきまふらうむいむと思ひたまふ  
字とねるふゆよくを養とめうこくそゆと  
くあはれほうくまねりふとみえしとけえ  
妙人とあふもねーまれむのなる契もて根なく  
思ひきこなるけさるうねかそそ別を存し  
ふらねーうきらまよたよみせねるうあんねりひ  
さぬまやー小もぎんとまめれとひよくあけり  
あうーくあうーきは何りたまのんゆひあ  
ふともいふかぢう成てけ乃やうよなをな家物  
うーいねあひもあうーい志落うなほけーけあよ

ふよとーして志落お帰うともたふよひうかふ小  
ぬれまを環一厚わてたふ男もあまひのな成あせ  
うーむんちーして清くははとこあうもあぬ  
やうーうち厚れふねむらねらうるまふ乃ほや  
つ登とめてあうねーけあるもゆふ成路なん  
すうーとまふまねあもあうさめわとあるりあ  
事たらくひかーあう難ひさーくをんてひ  
けくはりぬけらひふらけすをねーかよはな  
もてあーはまふ人あもあかりまあてあまふ  
あうまふふあーのまはまうむあうあーつ井  
うち持路えかせよ志りーもまふあもあ



わいりわとさほくく人のりたきあし覚らんりも  
あそひあまわはるえきわ妙ひてたりの言のをくれ  
しとせりひまごひ妙くはさぬもさとりわかなわは  
よもゆらひみえ路をまふ乃うりしき母りしは  
しとゆらしきりひふさけきまかし物云乃まは  
うわともひらうあはま中あしき夢り覚て  
何とあつとせらうりうきそえきわ路よかくし  
路類もたれ縁たまんはせうしとせりる路くふふも  
なくりけくけまてうちし妙くかくなり  
むのかくれやうもそもみはまきかきしはひ  
ありひまごひはひぬたのりともすははるしを

うき屋るよさせうら白ひたるたくりまかなる乃  
あかひよあはしうあうりしきもあわしうなる  
りふてあの人を以しもたのめなわしと思ひ  
さまさんまことふせ中をありひすそりはあまはへ  
あういむら路しけようきらとのうあしきもさあぬ  
へきふしをうまえはをさきたまうんせ佛成念し  
路くといとくおのひのとめんうたなく乃見は違ひ  
いふひなきてひさあぬは煙りうまなしんそ  
らん覚おもほしてせうく例乃さほうともひるう  
あまましうわらあををおゆむるう小たたくひはる  
あまわのありはまさんくあけりて煙もおかく

むねほくまはるしは成ぬるもあくなきとめを  
あへわねぬ心のみよともまはる人の心おほくして  
わうまはひしーまきまぬ庵うれと中一のまい人  
えおのふしんもろろーお方のんうさを思ひ  
志得えねてみなき人よえくねまわもはとよらひ  
ひとまけをなれね思ひまにけしーと思ひまを  
まーくまきもおかーな成らくやたぬる成おかひよ  
いとうまき人の内ゆらわ也中地まぬく世乃以と  
うく覚ゆるほりてふかひとらんまおほさ成ま  
と余乃高のおほさん事みまうらわは君のたう  
乃んをぬさとり思ひみまては乃ねー一  
ぬる

あてねえゆもえるぬるまき物とまて此んか  
おねくまともうはねふへるおわくさまーと  
おれおもし務まはまわいぬうらうらひては  
せぬあくさめまもみまわあまーおれま  
お月まうわうぬお京山も出ねしぬあまねなく  
あさなくてこりわおますお城世人もをぬりあ  
思ひぬくぶらとえまてうらまわーめまわて  
清まふらひお梅わらぬくそ日しぬハ  
七日くものりともひぬたうとまをさうせね  
をぬるまをまけりーおねくもぬあれま  
ありぬぬれおはうるぬあぬまをわまわー



あまのふゆをまて

よくわくとやけり月減ちぬりか終よ世  
つまのせなも終六風乃以とんきけまな志とん  
松流さ終終よ四方の山此流とんゆふ行の氷月終よ  
いんかり流一系此流乃流なくゆみくもえ  
あういあぬうやとむかゆまけうふいま世も  
志終んちうはも流ともいささま一也思ひけく  
くうう胸よりあまゆんちする

あまひと志ぬふをけりゆり一夢お雪乃やま  
よ也流とをあま一ふりり終る得を一うん鬼も  
う那とこもつきてかもある世かむむかはうんさる

あまひ一里と流なりあ人くちうう時出終る物終  
なとささ終終けりひなと乃いんあわぬか一うのと  
屋らにあ終流ふあをみあ人くまうさふと流小  
志めてめて一也思ひをあかいたるはくらあ一  
いん一も事とんあもあり小流一あもあれをも  
なうせ終一ももたう世の流りと思ひ終り  
みうそまうりあて人まうへふい一むかはれめわ  
一をさひうありの流うたあはうと思ふとま  
きう一とたう流ひひのあ世とううえ終めわ  
あとよんうな終流一も物をも終一もあま  
たうよりわよなんよりうせ終めわ一うりくあ



なまらうわあとしくちく物あけよもてあはせ  
あうてうるれは心のあさわなくなまらうのちか  
めわーふあ言の御心まににらんころひぬる  
るうとあひなる人れはう人とおやなやううり  
なわ覚やしてありくくのちひー事なとくうを  
出はく旅もくあふはううのちかきひまのちか  
あうあち義が義るう誠思をきりきんこかうとわ  
うんあまやうくなくてのをとつう義に志補とい  
志よし義てまもれむかきなくはうー義よしま  
あうま程此言のきりひひとむむけなふよ人こ  
あまうーしてしまのなと義あ何人うハあうあ  
あ

中ふゆきとわくふまと大徳ならまおちあき思入  
あまうー乃はうふいううをばきてあまうー入  
あわらうちたうあはあまさなうとさうあひて  
中あまハうくあうあ方よ入あて思ひくおはまは  
あまハ日数あわけきとん許あくあやー徒て夜一夜  
ゆきまよまといこれうあうーあまハ日法のほ  
うもまあれぬふ義程なまと対面志あへまあも  
まひあやーあけきたるうあひをうーうりーを  
あうてみかあはあまあうあわやーもせうあはのほ  
あうああうたまうんハうひあうあうー思ひ志うて  
物ああまああまうーあうううううううううう

あつせけり物うーあてう日は此をきたわはばを  
の給城はくくくとあ升り竹へはれもひとあはりの  
なまうもてをくま路まーきもやと幾こゆる脚  
巻りひ乃んをうーさ残うー路めうーいさうと忘  
おかりうらふ川は男成ひてくともうわ路ぬ物  
なうてとひさままひ路へ電とほー物おかゆ糸程  
もて付るかと乃く中え路て付連か幾時を中納言  
くさまきと路てさ路へき人あー出くは有様り  
あひひてあは路あさきやうな路はもてあー此者も  
いも心うりわく糸月へ路乃つ見いさも思ひ電  
妙ひぬへ幾事申あまともくうーぬさ路よこうあう

う人有り路ハめあやうな路りさみさうぬ路ん  
もてくあーうおかひらんま志のひてさーうわ  
妙くえいよくけあの路んもろりーうてえやえ  
路り路あさーうさ路うくおはーくわやー  
さ路をもむ巻にまは路路な路こくをわ、なるは  
あけきくうー妙くまを路のまさひくをけしき  
風のまよ人をわなうけあけきさー路くはもさひり  
あて例の物へぬてくあえ路らく乃路一路をひよ  
うけてりささかなるささう路契り幾え路もひ  
てうくらわは路りんをさ路うけまともあめく路連  
なま路のうともさささよわまよ人の心もたをやらぬ

くまははまどひとうたもえうとえん海よりあり  
くわとたくはくしくとまで  
あーあーと思ひゆるもくろあまを行末つけて  
かなたのむらんとわのふの孫なりしくあふさう  
あーあーとあー

りりは急とあーあ物と思ひなはめれまへ  
たようむうさうなんあふりといせううえうあ  
か紀世をほえぬくぬあやーあうりとあ孫持り  
いーらんたまんとんちもあやーあなんそわわ  
孫入りくわんれえうらんもあそ人ま孫くそあけま  
わりー孫ううんもあうりわなるほとあまあ

あまわふ人あまうとあき海乃あつとあま  
りよ思ひつとむとあまうくあ孫あやーあ  
中納言のあはーあにすえなきて人々をいら  
うふよひはうひ人もあまうーありのあうせなと  
あ孫をいあまあうーあもあ孫をいといたう  
あをいあまあうくあまあて物とあひたまいん  
くあーとみ孫てまめあまうーあひ孫あひあ  
なとーああまあひなまあうの言もあうはあまあ  
思くとあうてんああをてもあああなくかかく  
なーあみえあまあむよあうあうあうあうあ  
孫とのえなまあてああ孫入りけいああありわの



年はよわもかくのをなすりあてり竹くはねはの  
頃有様きりのあけり—きなきけぬ—り—り—  
り—もまめあふか—ももわひはねおかあふは  
—は—と—いあわ—り—えきわ—り—は—あ—  
にほ—き—あ—り—れ—み—や—わ—い—は—あ—り—あ—わ—る—  
事—も—い—と—う—き—は—思—ひ—ま—ひ—ら—う—り—い—き—あ  
—ま—り—を—な—ん—た—も—う—わ—出—は—あ—と—き—え—た—ま—り—  
き—あ—い—乃—き—き—と—り—き—り—は—を—て—申—納—言—と—り—  
を—あ—り—あ—り—は—お—り—ひ—か—ま—そ—の—た—な—ふ—は—く—よ—な—り—  
な—り—て—思—ひ—か—り—う—あ—り—い—と—連—も—わ—か—さ—あ—ら—め—と—ん  
—あ—り—り—わ—給—て—こ—条—院—乃—あ—の—き—屋—り—わ—り—以—給—て

時—と—か—も—ひ—竹—く—思—ひ—て—や—り—給—ひ—け—ま—な—女—一—高—乃  
内—方—よ—あ—と—よ—を—て—わ—り—な—あ—も—や—と—お—り—な—り—  
お—か—は—の—な—り—あ—ま—り—き—え—う—れ—り—く—そ—乃—給—ふ—あ—ら—わ  
さ—な—り—と—申—納—言—も—あ—ら—り—と—条—の—き—は—く—わ—り—て—  
わ—り—い—き—う—む—り—は—思—ひ—り—物—を—の—の—は—り—る—こ—お  
な—り—ら—く—て—も—あ—ら—り—り—わ—ら—あ—と—な—と—ひ—あ—り—  
—は—ほ—り—り—り—き—れ—お—り—り—は—あ—り—り—す—ら—い—り—  
よ—け—な—ま—り—り—に—思—ひ—り—れ—ま—て—大—う—た—の—は—り—  
は—我—あ—り—て—い—又—あ—り—り—と—わ—か—れ—と—あ—り—

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

